

為政第二

子曰、温故而知新、
 可以為師矣。

しい子曰わく、ふる故きをたず温ねてあたら新しきをし知らば、
もつ以てした師為るべし。

(2-27)

<子曰わく、故きを温ねて新しきを知らば、以て師為るべし>

Q:「子曰わく、故きを温ねて新しきを知らば、以て師為るべし」とは何ですか。

- A: (1)「孔子が言った。過去のことを考え究め、それを取捨し、選択したものをもとにして、現在及び将来のことを考える、そうした考え方をする人は、他の模範となり得る人である」の意。
- (2)「先人の述べた学、いわゆる過去の事柄や学説などを謙虚に学びとり、思い究めながら、そこから現実にふさわしい新義が発見できるようになれば、人の師表となる資格があるものだ」の意。
- (3)伝統にばかりこだわると頑固にすぎる。過去を否定し、新しいことばかりにこだわると、時流に流される。
- (4)「温」は「タズネル」と読むほかに、「アタタム」と読むことも。重ね習いて、十分熱すること。研究の意。
- (5)「故き」は「旧」の意。典故、故事などの故で、自分より前に出た人の学説や、過去の事象は皆「故」。勿論、古典も「故」。
- (6)「知新」とはね新義を知る、新義発見。
- (7)「以て～べし」とは、「～の資格がある」、「ねうちがある」の意。
- (8)人の師たる者は、「温故」に停滞してもいけないし、新奇をてらって「知新」に先走ってもいけない。「温故」だけでは、いかに広くとも百科事典にすぎない。「新奇」だけでは、人を誤らせ、堅実味がない。須らく、過去の事柄や学説を十分究めて遺漏なきを期すると共に、現実に即応した新しいものを発見・発明して、宇宙のすべかにしたが応じ、進化の原則にしたが順わなくては、学問の意義がない。